

令和 4 年度 沖縄県委託事業

沖縄県地域統括相談支援センター 事業開催報告

目次

事業内容

1. がんピアサポーター人材育成業務

沖縄県内各拠点病院 院内患者サロン

①がんピアサポーター派遣事業（沖縄県内拠点病院）・・・資料 1-1

②がんピアサポーター派遣事業（オンラインサロン）・・・資料 1-2

2. がん相談業務

(1) がん相談記録シート集計報告・・・資料 2

(2) 医療機関への説明・・・資料 3

(3) がんピアサロン・・・資料 4

(4) 事業評価会議・・・資料 5

(5) 相談員ミーティング・・・資料 6

(6) 意見交換会～沖縄県のピアサポート活動について～・・・資料 7

令和 4 年度 沖縄県委託事業

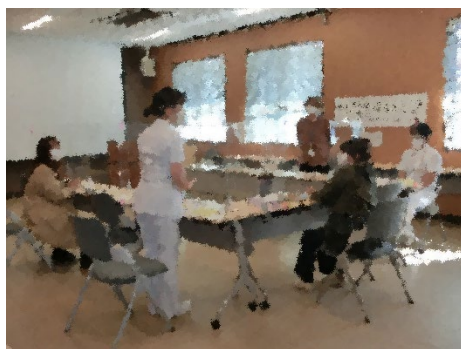
沖縄県内各拠点病院 院内患者サロン
報告

令和4年度 がんピアサポーター派遣事業①

1. 名称 令和4年度 第10回 ゆんたく会
場所 琉球大学病院 大学院セミナー室
日時 令和4年1月10日（火）14:00～15:00
派遣者 がんピアサポーター（上地 久美子）
参加者 一般参加者1名

院内スタッフ7名（講師含む）

テーマを設けずフリートーク。参加者の悩みなどピアサポーターの体験談を語る。今回、参加者1名だったが、看護師、相談員、ピアサポーターさんなどと、気になっていることなど、ゆっくりお話しをされていて、とても良い雰囲気だった。



2. 名称 令和4年度 第11回 ゆんたく会
場所 琉球大学病院 大学院セミナー室
日時 令和4年2月7日（火）14:00～16:00
派遣者 がんピアサポーター（上地 久美子）
参加者 一般参加者9名

院内スタッフ7名（講師含む）

琉球大学病院 栄養管理部 小橋川 広樹氏による講演会。

参加者、看護師、相談員、ピアサポーターさんなどと、気になっていることなど情報共有し、とても良い雰囲気だった。



3. 名 称 令和4年度 第12回 ゆんたく会
場 所 琉球大学病院 大学院セミナー室
日 時 令和4年3月7日(火) 14:00~15:00
派遣者 がんピアサポーター(上地 久美子)
参加者 一般参加者2名

院内スタッフ6名(講師含む)

テーマを設けずフリートーク。

ピアサポーターによる体験談を話し、患者さんの悩みや不安に寄り添った。患者さん同士での意見交換もあり、和やかな雰囲気だった。フリートークのみとのことで早めに切り上げ閉会となる。



4. 名 称 第134回 那覇がん患者ゆんたく会
場 所 那覇市立病院 3階講堂
日 時 令和4年1月19日(木) 14:00~15:00
派遣者 がんピアサポーター(西村 克敏)
参加者 一般参加者4名

那覇市立病院 スタッフ12名(講師含む)

がん治療中の食事と栄養、自宅でもできる運動療法の講話があった。栄養ドリンク等のサンプル配布や、お家でできる簡単な運動などのレクチャーもあり。

がん経験者であるピアサポーターの活動紹介とともに当センターのイベント案内を行った。



5. 名 称 第135回 那覇がん患者ゆんたく会

場 所 那覇市立病院 3階講堂

日 時 令和4年3月16日(木) 14:00~15:00

派遣者 がんピアサポーター(西村 克敏/上地 久美子/久田 万智子)

参加者 一般参加者 6名

那覇市立病院 スタッフ4名

今回は地域統括相談支援センターの相談員2名によるがん体験談を講演。その内地域統括相談支援センターの活動を紹介。その後30分間は、当センターに登録されているピアサポーターも参加し一般参加者を交えてのフリートークを行った。1時間の間での体験談と当センター紹介とのことで時間がタイトとなった。次回機会あれば、1時間フリートークとしその中で体験談をお話をし患者さんの悩みや不安に寄り添いたい。



6. 名 称 第131回 中部地区ゆんたく会
場 所 中部病院 7階レストラン
日 時 令和4年1月26日(木) 16:00~17:00
派遣者 がんピアサポーター(西村 克敏)
参加者 一般参加者 15名

中部病院 スタッフ 8名

事務員欠席のためピアサポーターのみ参加。当日は15名と多くの方が参加し自己紹介から始まり和やかにみなさん思い思いに対話をしたとのピアサポーターより報告を受ける。

7. 名 称 第132回 中部地区ゆんたく会
場 所 中部病院 7階レストラン
日 時 令和4年2月22日(水) 16:00~17:30
派遣者 がんピアサポーター(上地 久美子)
参加者 一般参加者 6名

中部病院 スタッフ 3名

当日は、みなさん各自で自己紹介と一言から始まった。各々この1ヶ月での出来事など話し、肩の力を抜けたように感じた。また、健康のために頑張っていること(ウォーキング・庭いじりや寺子屋)など情報共有を行った。悩みなどにみなさん自身の思いをお話したり参加者同士での声掛けもあった。17:00~席替えもあり、がん経験者のピアサポーターへ聞きたいことなどを中心に会話が弾む様子が伺えた。予定より30分延長し会が終了となる。



8. 名 称 第133回 中部地区ゆんたく会
場 所 中部病院 7階レストラン
日 時 令和4年3月23日(木) 16:00~17:30
派遣者 がんピアサポーター(上地 久美子/久田 万智子)
参加者 一般参加者 8名
中部病院 スタッフ 6名

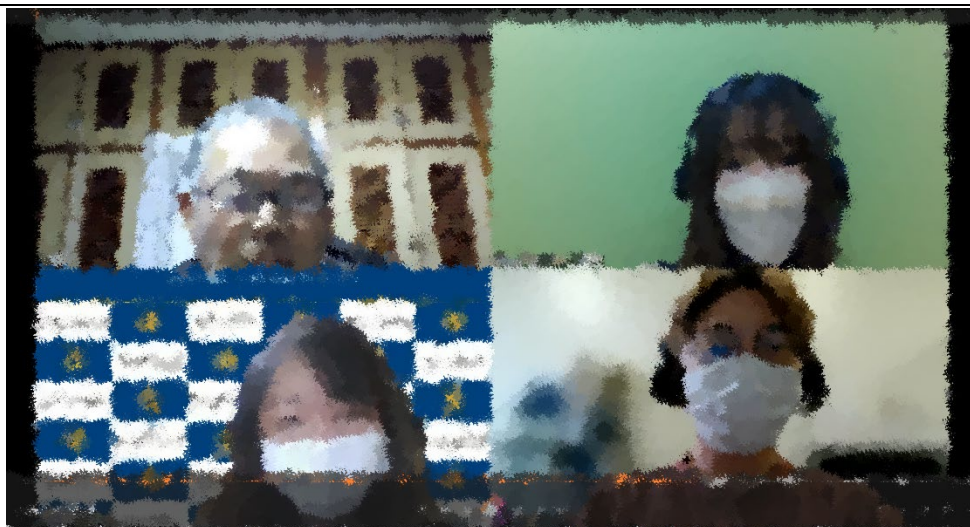
今回のゆんたく会はカラーアートセラピストをお招きし、各自気になるカラーに触れつつ自身の体験など話をした。カラーアートセラピスト新里さんが進行役とし、患者さんとともにカラーアートに触れた。17:10には一旦カラーアートセラピーは終了とし、その後はフリートークでそれぞれのピアサポーターが直接参加者に話をする。自身の体験をもとに患者さんに寄り添うことができたのではないか。前回に引き続き30分延長となり会が終了となる。



令和4年度 がんピアサポーター派遣事業②

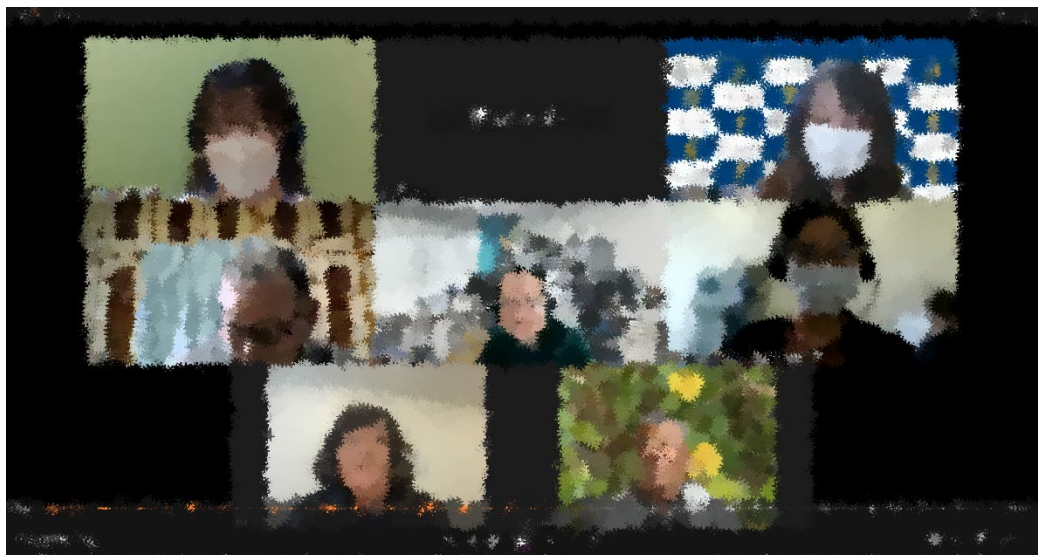
第10回 オンラインサロン報告書

名 称	第10回 オンラインゆんたく会
目 的	がん患者等関係者並びにがん対策関係者へ沖縄県地域統括相談支援センターで養成したがんピアサポーターを派遣し活動の場の創出を図る。
日 程	日 時 令和5年1月17日(火) 14:30~15:30 場 所 各自施設(患者) / 琉球大学病院がんセンター内
派遣者	がんピアサポーター 上地 久美子
引率者	沖縄県地域統括相談支援センター 事務補佐員 1名
主 催	琉球大学病院 がんセンター内 沖縄県地域統括相談支援センター
当日の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者1名となるが、通常通りオンラインサロンを開催。 ・オンライン注意事項とここでのお約束を読み共通認識を図る。 ・前半は琉大相談員が対応中で席を外していたため、3名でゆんたくをスタート。 ・治療が辛すぎて記憶がない部分があるが、どうかなど話がある。忘れないように記録に残すなど、アドバイスもあった。 ・オンラインサロンも同じだが、1人ではなくて、みんながいるこのような場に支えられているとの話があった。 ・日頃の運動については、畑仕事をしていると生きがいがあるとやる気になると話がある。 ・治療の話もそうですが、普段の他愛もない話をして患者さんの笑顔になる場面もあった。 ・今回は参加者1名と負担にならないか心配したが、1時間しっかりお話していつもよりお話できて嬉しそうな印象を受ける。 ・参加者が1名でも参加者の体調に気を付けながら、月に一度のオンラインサロンのこの時間を大切に継続していきたい。 ・次回の案内とピアサロンのイベント案内をし15:30に閉会となる。 <p>*参加者(患者様1名・院内スタッフ2名・事務補佐員1名)計4名</p>



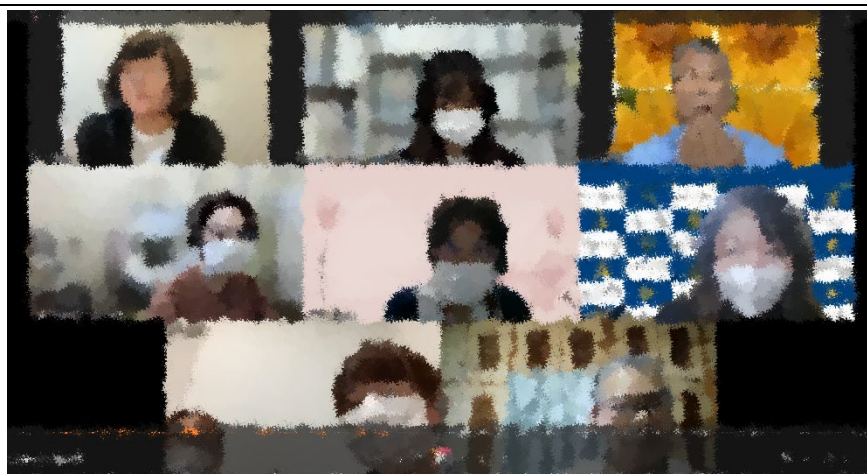
第11回 オンラインサロン報告書

名 称	第11回 オンラインゆんたく会
目 的	がん患者等関係者並びにがん対策関係者へ沖縄県地域統括相談支援センターで養成したがんピアサポーターを派遣し活動の場の創出を図る。
日 程	日 時 令和4年2月21日(火) 14:30~15:30 場 所 各自施設(患者) / 琉球大学病院がんセンター内
派遣者	がんピアサポーター 上地 久美子
引率者	沖縄県地域統括相談支援センター 事務補佐員 1名
主 催	琉球大学病院 がんセンター内 沖縄県地域統括相談支援センター
当日の様子	<p>・今回は、前回ピアサロンでご参加いただいた患者さんも初めて参加となり一般参加者 3名となる。加えて、グループ・ネクサス・ジャパンの天野慎介さんも参加。</p> <p>・オンライン注意事項とここでのお約束を読み共通認識を図る。</p> <p>・これまでは、事務員が司会を努めていたが、ピアサポーターの上地がファシリテーターとして会を進行する形式をとった。</p> <p>・自己紹介から始め、各参加者より普段の近況報告を受ける。</p> <p>・現在検査結果待ちで不安な気持ちを話していただけた。検査を待っている間は、落ち着いた不安ですよと経験者による寄り添い、患者さん自身もサロンでみなさんにお話聞いてもらい心強いとお話していただけた。</p> <p>・現在再発して治療中。治療に使用する点滴が高額で驚いていて、後8回もあるので不安とのこと。また、現在の治療について辛い気持ちをお話してもらう。</p> <p>対面の琉大ゆんたく会では、乳がん患者会の方に講演をしていただくこともあり、次年度日程決まればお話聞きに来てくださいと案内をする。</p> <p>・がん種は違うけれども、がん治療を終え元気に活動されているピアサポーターを見ると、元気になると言っていただけ、ピアサポーターも頑張る活力になるのではないか。</p> <p>・次回の案内をし 15:30 に閉会となる。</p> <p>*参加者(患者様2名・院内スタッフ1名・事務補佐員1名)計4名</p>



第12回 オンラインサロン報告書

名 称	第12回 オンラインゆんたく会
目 的	がん患者等関係者並びにがん対策関係者へ沖縄県地域統括相談支援センターで養成したがんピアサポーターを派遣し活動の場の創出を図る。
日 程	日 時 令和4年3月28日(火) 14:30~15:30 場 所 各自施設(患者) / 琉球大学病院がんセンター内
派遣者	がんピアサポーター 2名 (上地 久美子/嘉手苺 ひとみ)
引率者	沖縄県地域統括相談支援センター 事務補佐員 1名
主 催	琉球大学病院 がんセンター内 沖縄県地域統括相談支援センター
当日の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度最後のゆんたく会。相談員の上地がファシリテーターとして会を進める。 ・前回と同じ参加メンバーにて開催となる。今回は、12月に養成したピアサポーターとともに中部病院と八重山病院の相談員も参加となった。 ・オンライン注意事項とここでのお約束を読み共通認識を図る。 ・自己紹介から始め、1人ひとり最近悩んでいることや近況報告をした。 ・肺腺癌と肺が固くなる症状はどう違うの?などのピアサポーターでは答えられない専門的な内容は拠点病院の相談員さんより回答があるなど、臨機応変に患者さんの疑問解決につなげた。 ・周りに話せない・分かってもらえないもどかしい気持ちをお話していただいた。ピアサポーターによる寄り添いの傾聴とともに、このようなサロンなどでお話してストレスをためないように呼びかける。 ・治療中の経過報告もあり、現在の病状や体調を伝え不安な気持ちを話ししていただき、みなさんの経験談をお話されていた。自分の場合は…など症状や副作用をお伝えしたり励ましあった。フリートーク1時間とのことでみなさん満遍なくしっかりとお話されていた。 ・次年度のオンラインゆんたく会の案内をし閉会となる。 <p>*参加者(患者様3名・ピアサポーター2名・他スタッフ3名・事務員1名)計9名</p>



がん相談業務 (院内におけるピアサポート)

相談記録シート集計報告

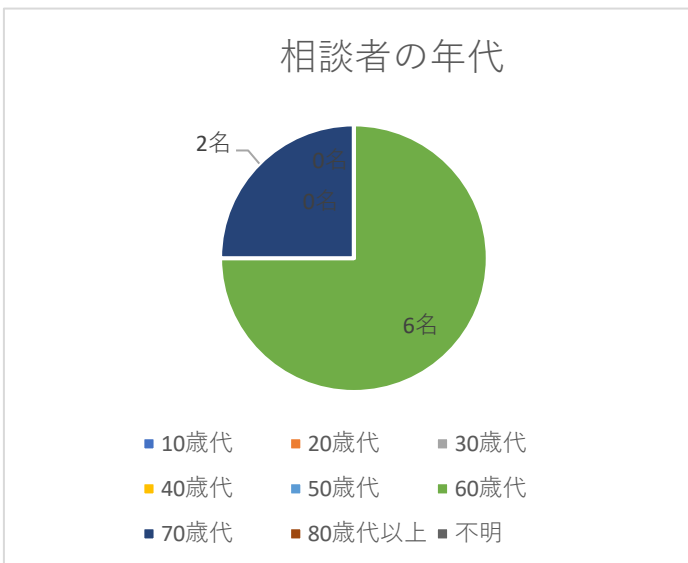
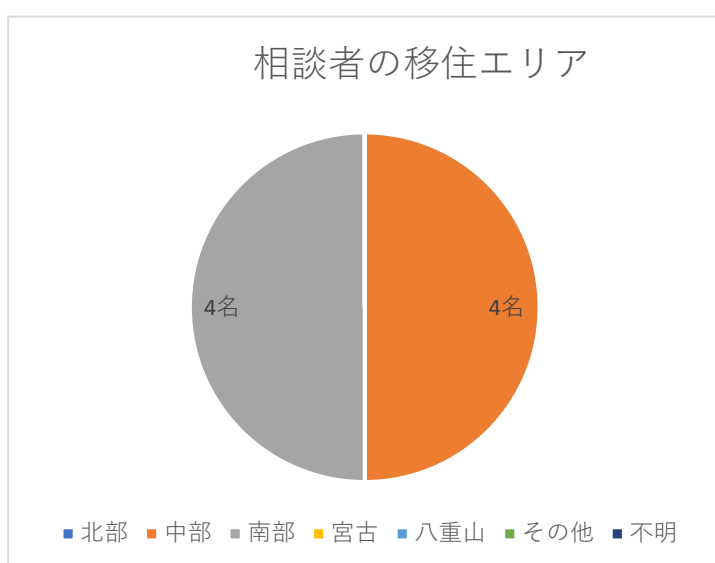
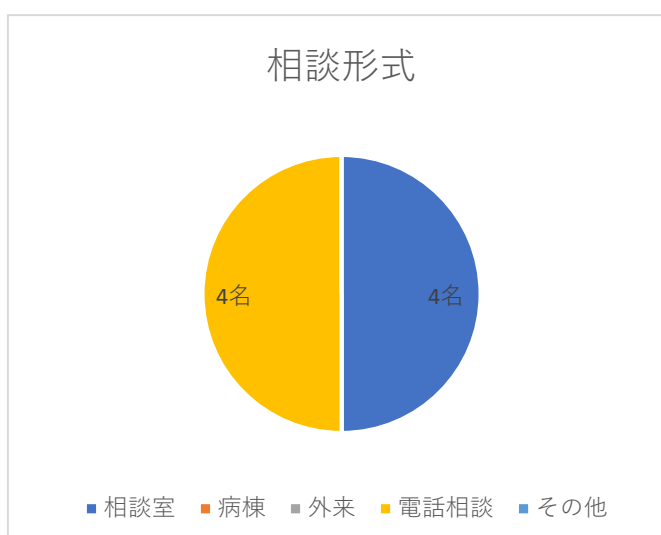
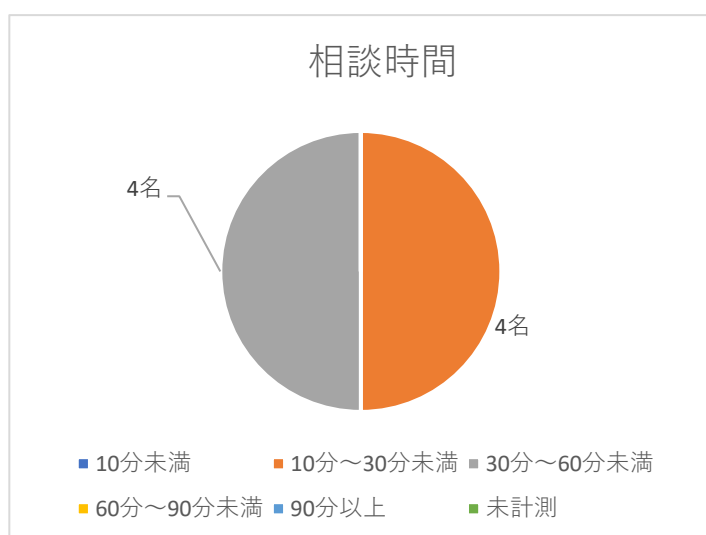
実施期間：令和5年1月1日～令和5年3月31日

沖縄県地域統括相談支援センター

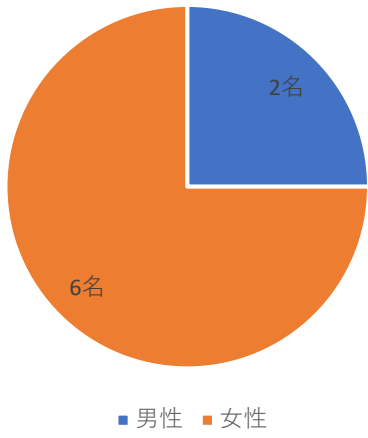
がん相談業務（院内におけるピアサポート）集計結果

- 調査対象期間 令和5年1月1日～令和5年3月31日
- 調査件数 21件

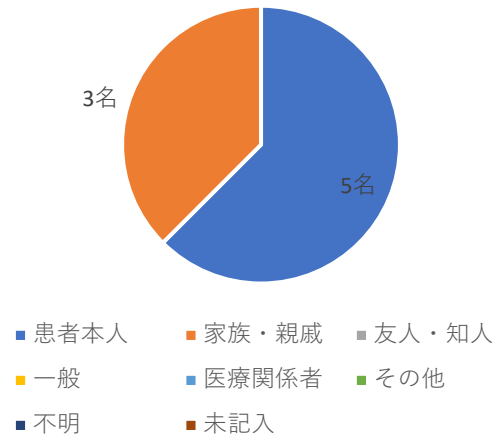
相談月	件数
4月	3
5月	2
6月	3
合計	8



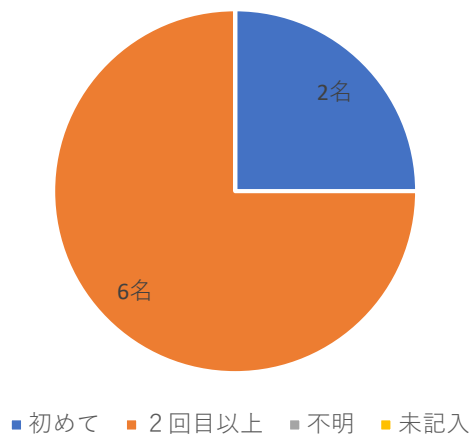
相談者の性別



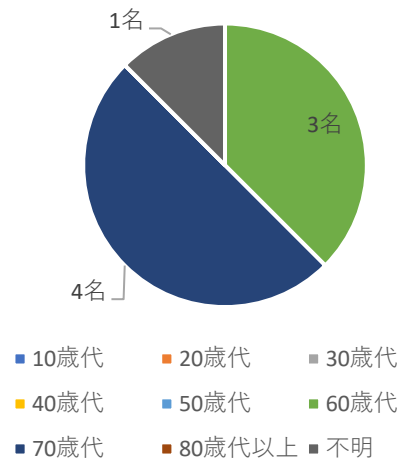
相談者のカテゴリー



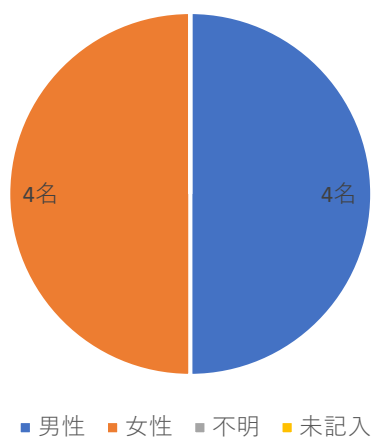
相談者の利用回数



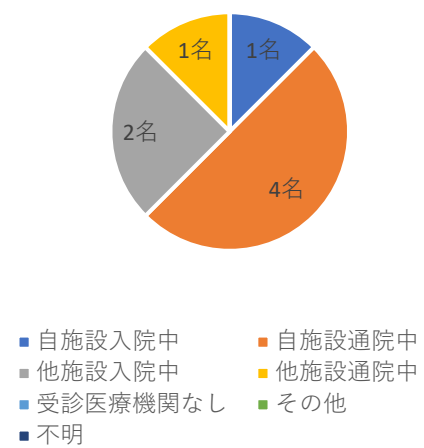
患者本人の年代



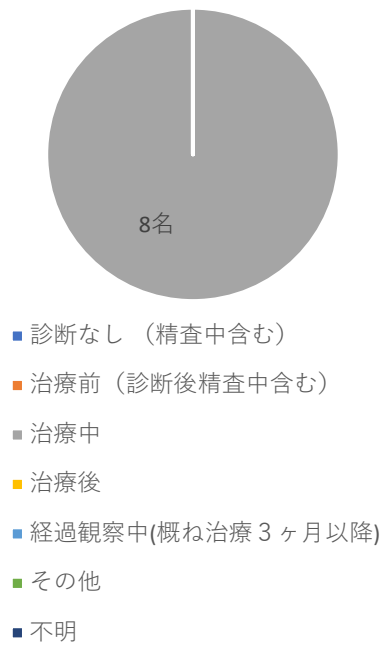
患者本人の性別



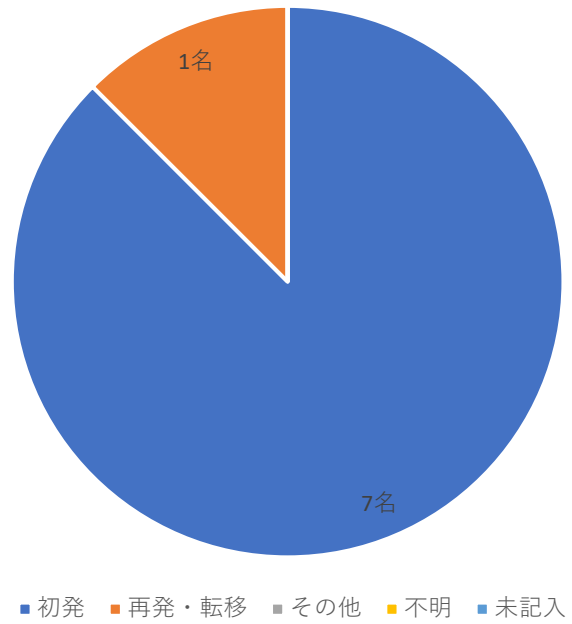
受診状況



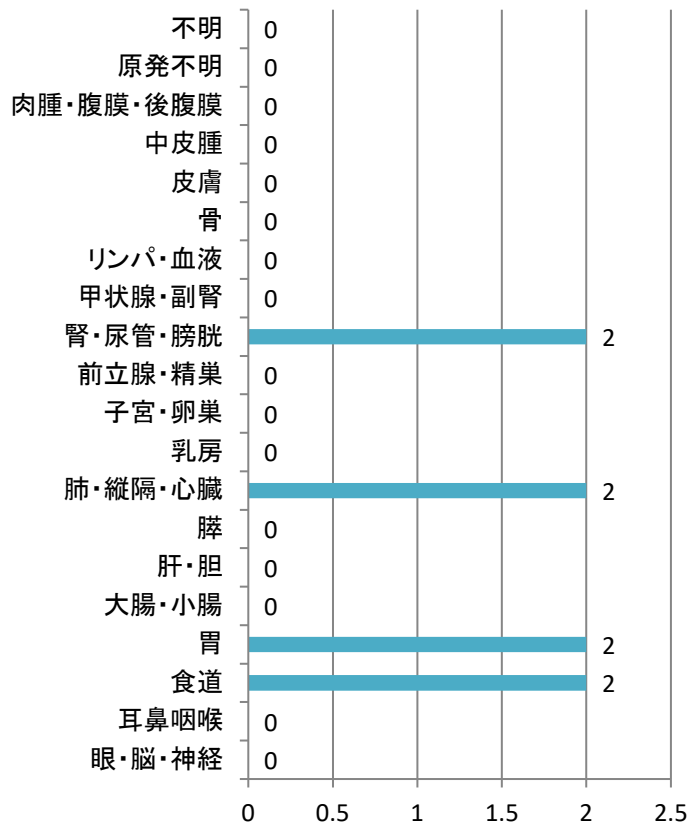
現在の治療状況



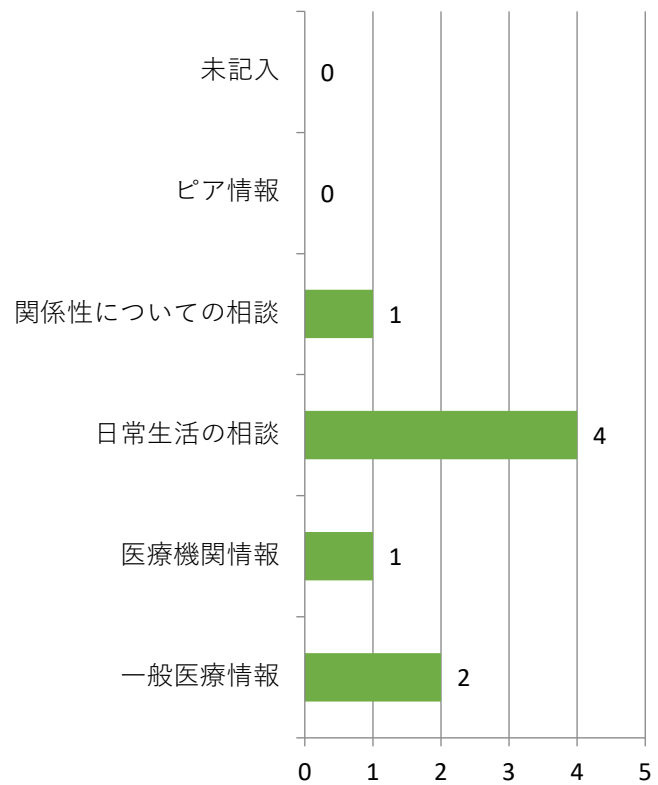
がんの状況



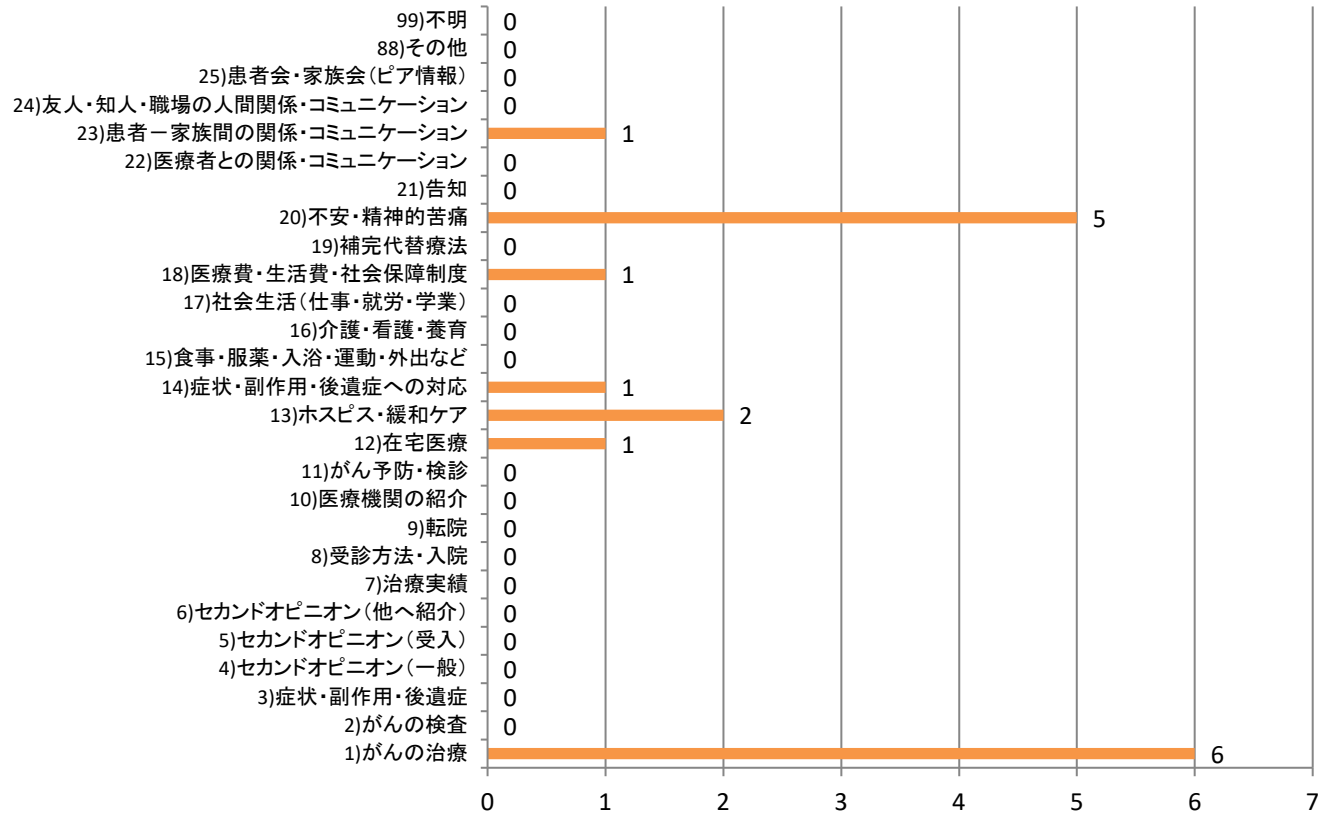
がんの部位



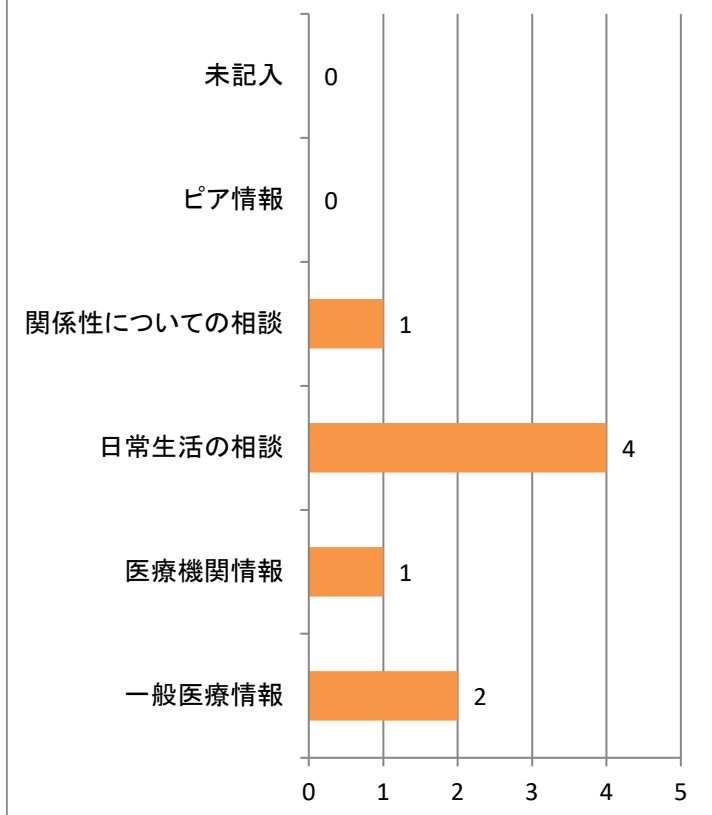
相談内容 (実施したものすべて・大項目別)



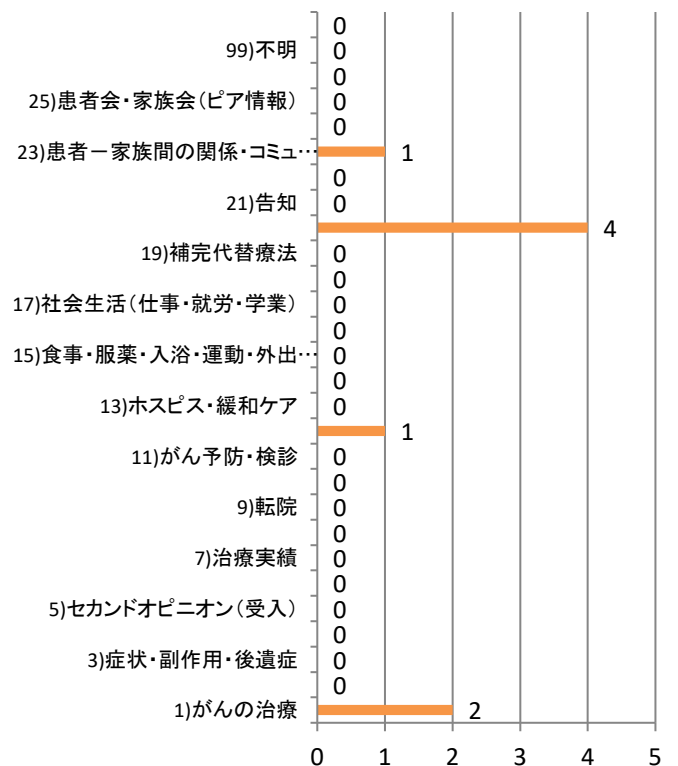
相談内容(実施したものすべて)



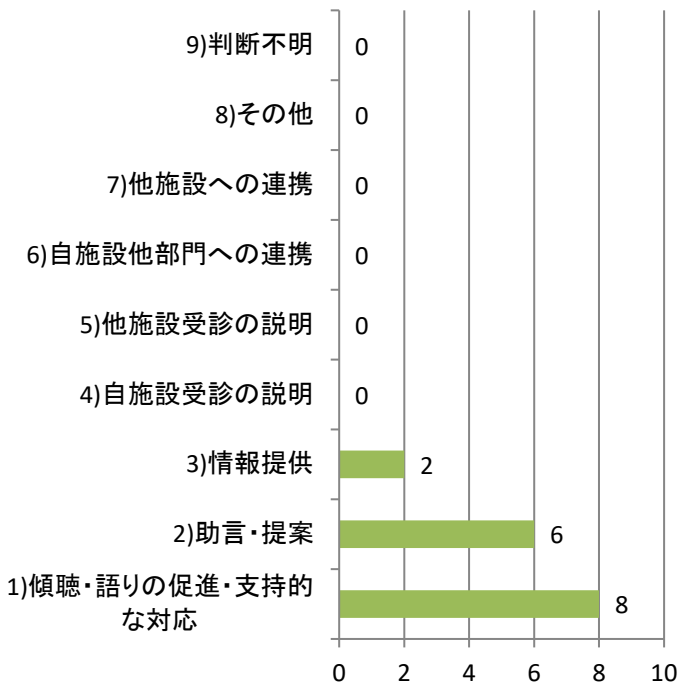
相談内容(最も比重の高いもの・大項目別)



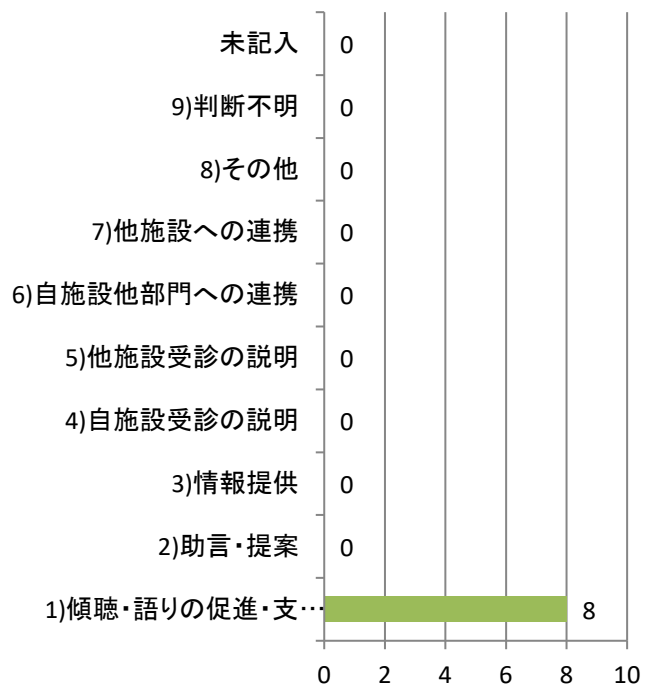
相談内容(最も比重の高いもの)



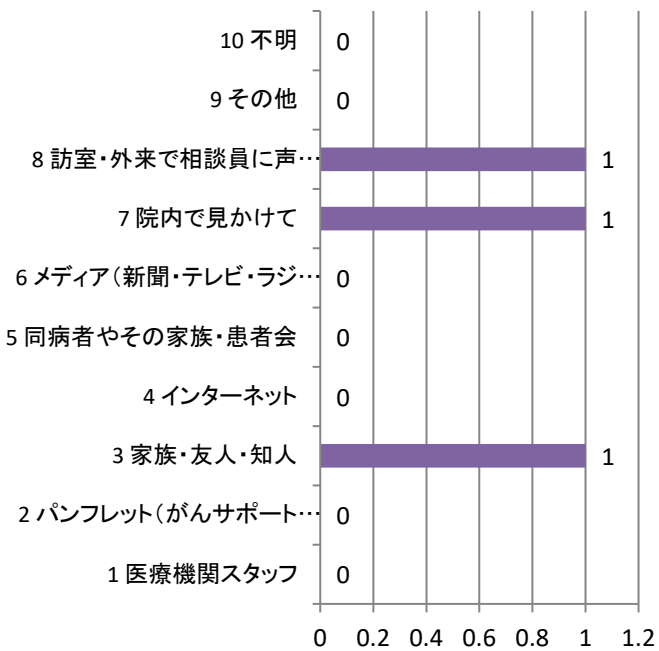
対応内容(実施したものすべて)



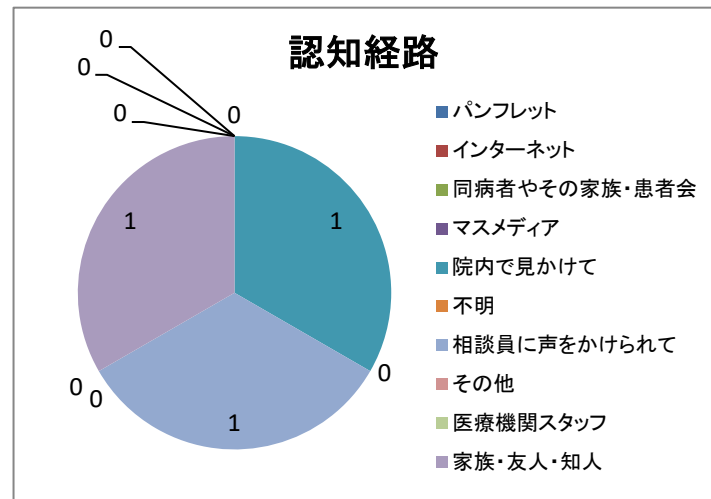
対応内容(最も比重の高いもの)



認知経路



認知経路



令和 4 年度 沖縄県委託事業

医療機関への説明会

語やびら、がんのこと

～がん患者・医療者 意見交換会 in 久米島～

実施日 令和 5 年 3 月 11 日 (土)

【名 称】

医療機関への説明会

語やびら、がんのこと ～がん患者・医療者 意見交換会 in 久米島～

【目 的】

ピアサポート事業を広く周知するための普及活動として、医療機関への説明会を開催するとともに各関係機関との連携を図る。

【概 要】

1. 日 時 令和5年3月11日(土) 13:00～15:35
2. 場 所 米島町複合型防災・地域交流センター ほんのもり 多目的室1～3
〒901-3121 沖縄県島尻郡久米島町嘉手苅 530
3. 主 催 丸正印刷 株式会社
4. 共 催 沖縄県地域統括相談支援センター
5. 参加者 久米島町 健康福祉課 健康づくり班 班長 仲村 祐介
那覇市立病院 がん専門看護師 島袋 百代
琉球大学病院 緩和ケアセンターがん専門看護師 狩俣 勇人
久米島病院 訪問看護・外来師長 折戸 雅恵
久米島病院 地域連携室 社会福祉士 中村 まゆみ
沖縄県保健医療部健康長寿課 小波津 真紀子
沖縄県地域統括相談支援センター ピアサポーター 西村克敏
(当事者) 國吉 佳代/渡慶次 春子/宮里 恵美子

- <プログラム>
- ①13:00～13:15 (15分)
開会挨拶・参加者紹介
 - ②13:15～13:30 (15分)
久米島におけるがんの現状
 - ③13:30～14:15 (45分)
がん患者・家族 体験談
 - ④14:15～14:25 (10分)
休憩
 - ⑤14:25～15:15 (50分)
意見交換会
 - ⑥15:15～15:35 (20分)
ご存知ですか? がんピアサポート

【参加者】 一般 9名 関係者 9名 スタッフ 3名 計 21名

【内 容】

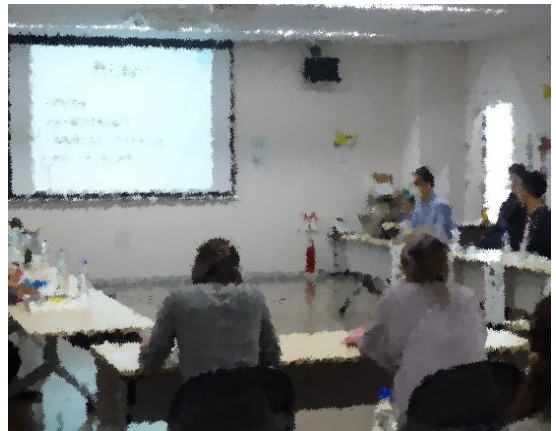
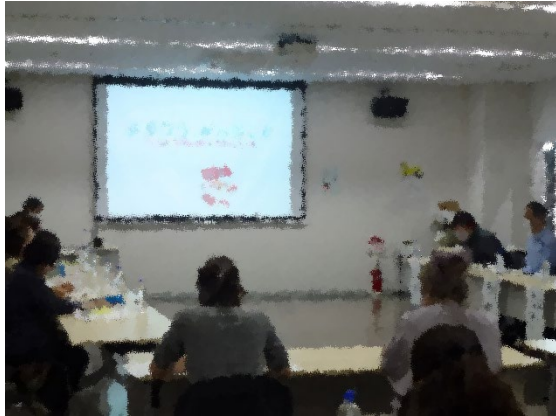
久米島でのがんの現状について久米島町役場の班長にて講演していただいた。久米島でのがん検診などの役場でのがん患者支援についての取り組みの説明があった。久米島出身の当事者の体験談では、離島ならではの悩みや問題、がんになった時の治療までの流れなど各々の想いとともにご講演いただいた。

意見交換会では、事前に募集した質問を読み上げ、解決策や提案を上げ活発に意見交換を行った。本島からは那覇市立病院と琉球大学病院のがん専門看護師も参加し、拠点病院での体制についても離島病院との情報交換が行われた。当センターのピアサポーターとして、事前質問にも回答し、自らの体験を語った。意見交換会後は、体験談を含めた活動紹介を行い久米島町民に当センターの活動について周知できたのではないかと感じた。

【振り返り】

今回の意見交換会を機に、患者会立ち上げなどで離島でのがん患者支援が盛り上がることに期待したい。そのためにも、次年度計画している患者会意見交換会では、久米島での患者会立ち上げについて議題に上げ、当センターとしても患者会立ち上げのフォロー体制を整えたいと考える。

特に離島は周りに知られたくないとの強い思いから誰にも相談できない方もいることを知れた。当センターのオンライン相談や電話相談がある旨を周知し、一人でも多くの方の不安軽減に繋がる活動ができたらと思う。今後もがん患者等支援事業と協働し、ピアサポーターについてさらに広く周知することが大事だと痛感した。



語やびら、がんのこと

がん患者・医療者 意見交換会 in 久米島

2023年3月11日 13:00~15:35

久米島町複合型防災・地域交流センター
 ほんのり多目的室1-3
〒991-312 沖縄県南城市久米島町吉野300

入場無料・どなたでも参加できます。

プログラム 12:30開場

- 1 13:00~13:30 久米島町におけるがんの現状**
久米島町福祉課 健康づくり課長 柳村 昭介
- 2 13:30~14:15 がん患者・家族体験談**
【当事者】西島 佳代 / 長女 次香子 【医師】吉田 孝典
- 3 14:25~15:15 意見交換会**
那覇市立病院がん看護専門看護科 高松 佳代 / 那覇大学病院緩和ケアセンターがん看護専門看護科 河野 真由 / 公立久米島病院 放射線科 放射線科 長井 邦雄 / 地域医療決定 社会福祉士 中村 まゆみ / 久米島町立総合ケアセンター 看護 地域包括ケア推進センター 地域包括ケア推進 中野 真由
- 4 15:15~15:35 ご存じですか？ がんピアサポート**
沖縄県地域包括ケア推進センター 研修員 西村 元哉

久米島でがんになったら
どうなるの？

がん治療について
よく知りたいたい。

がん治療もしていて
困っていることがある。

など、久米島の皆さまのがんに関する疑問や不安などについて、がん患者・家族の皆さまとともに、公立久米島病院看護科・社会福祉士、南島がん診療拠点病院のがん専門看護師がお応じます。

参加申込書

QRコードからお申込みの方以外は、FAXまたはメールにて、以下の事項をご記入の上、お申込みください。
(丸正印刷株式会社印刷 川原 080-6401-1285)

FAX番号 **098-835-8184** Eメール **y-kawashima@marumesa-printing.com**

所 属	
名 前	
連絡先電話	
メールアドレス	

QRコードでの
申込はこちら

http://bit.ly/3u0tW0r

主催：● 伊集院
(公益) 沖縄がん協会

＜お問い合わせ先＞丸正印刷株式会社 | 印刷：088-835-8181 電話：091-7888888 | 那覇市吉野町 21 | 098

令和 4 年度 沖縄県委託事業

がんピアサロン 開催報告

実施日 令和 5 年 1 月 22 日 (日)

開催概要

1. 名称 がんピアサロン
2. 日時 令和5年1月22日（火） 13:00 ～ 15:00
3. 場所 イオンモール沖縄ライカム 3F イオンホール
4. 対象 がん患者、家族、遺族、医療関係者及び関心のある方
5. 目的 ピアサポーターや他の参加者と語り合うことで不安や気持ちを分かち合い、情報を交換しながら病気に対する不安軽減に繋げる。
他の催し物と併せて開催することでリラックスし、参加者同士が打ち解け、話しやすい雰囲気をつくる。また、サロンで対応経験を重ねることにより、ピアサポーターの資質を高める。
6. 内容 カラーアートセラピストの豊見山喜美さんを講師にお招きし、カラーアートセラピー体験と併せてがんピアサロンを開催。
①13:00～14:00 カラーアートセラピー体験
②14:00～15:00 サロン（交流会）
7. 振り返り 当日開催前に、会場前にてチラシを配布。一般参加者3名。がんピアサポーター養成講座修了生・フォローアップ研修会修了生に声掛けをし、4名参加。患者会から3名参加となった。
 カラーアートセラピー体験では、色鉛筆を使用しワークショップを各々楽しんでいたが、参加者同士での作品を共有する時間が設けられず、もう少し余裕を持って時間を取ることができればより良かったのではないかと感じた。
 サロンでは3グループに分かれ交流会を行った。県の職員2名参加いただき、サロン開催時に当センターや県に求めることなど要望を一般参加者・ピアサポーターや患者会から聴取した。グループによっては意見聴取の話題が中心となり、一般参加者の不安や悩みごとを十分に傾聴することができないところもあった。今後の課題として、意見聴取することは最後のみで行い、参加者同士での悩みや気持ちを共有できるよう話しやすい雰囲気づくりを心掛けたい。



▲当日の様子

令和4年度 沖縄県委託事業

沖縄県地域統括相談支援センター
事業評価会議
開催報告

令和4年度

第4回 沖縄県地域統括相談支援センター事業評価会議

日時 令和5年2月3日(金) 10:00~10:30
場所 琉球大学医学部附属病院 がんセンター
出席者 天野 慎介さん (一般社団法人グループ・ネクサス・ジャパン 理事長)
増田 昌人 (沖縄県地域統括相談支援センター がんセンター長)
喜瀬 杏妃 (沖縄県地域統括相談支援センター 事務補佐員)

【報告】

1. 令和4年度 第3回 事業評価会議 議事要旨 (資料1)
2. センター事業計画 (資料2)
3. 相談件数統計 (資料3)
4. その他

【議題】

1. 来年度センター事業計画 (資料4)
2. 令和5年度 がんピア・サポーターフォローアップ研修会 (資料5)
3. アピアランスケア支援モデル事業 (資料6)
4. その他

【報告・協議事項】

(1) 令和4年度 第3回 事業評価会議 議事要旨

前回の地域統括事業評価会議の議事要旨は時間の兼ね合いで書面報告とした。

(2) 沖縄県患者会について

一般社団法人 沖縄県がん患者会連合会の解散を受け、がん患者会との連携について。がん患者会のバックアップをするためには、どうしたらいいか話し合う。まずは、がん患者会連合会の状況を聞き取り、ニーズを把握が必要との助言を受ける。患者会に対しては講演会共催や、琉大病院として会議の場所を提供する等出来ることからやるのはどうか。連合会との面談は必須とし、今年度中には開催したい。

(3) ピアサポーターの活動強化

ピアサポーター事業と患者会については分けることが大切。千葉県のようにパッケージ化で他病院へ出向くことがポイントとなる。また、参加者が少なくても続けていくことが大事である。相談件数などみてしまうこともあるが、参加者ゼロでも継続して開催していくことを強調されていた。

(4) オンライン相談について

他県ではオンラインサロンをすると多くの参加者がいる。地域限定などにせず開催するのはどうか。ピアサポーターは1人だと負担が多すぎるので、複数名にした方がいい。純粋なピアサポーターを原則2名とし、時間が合えばオンラインサロンにも参加していただけることになった。

(5) アピアランス支援モデル事業

県からの案内を受け、アピアランス支援モデル事業について公募について。がんセンターが受託者になるとことで、当センターとも連携を図りながらがん患者支援が行えるのでぜひ応募した方がいいとのこと。離島へき地におけるアピアランス支援について記載し、外部有識者の助言を得るとのことで、野澤桂子先生にアドバイザーとするのはどうか。野澤桂子先生に天野さんよりコンタクト取ること可能必要であればご依頼することに。早速モデル申請書類作成に取り掛かることにする。

令和 4 年度 沖縄県委託事業

相談員ミーティング

開催報告

実施日

第 2 回 令和 5 年 1 月 22 日 (土)

令和4年度 第2回

沖縄県地域統括相談支援センター相談員ミーティング

日時 令和4年1月22日(土) 16:50~17:15
形式 オンライン(琉球大学医学部附属病院 がんセンター内)
出席者 沖縄県地域統括相談支援センター相談員 仲田 ひろ子
西村 克敏
上地 久美子
沖縄県地域統括相談支援センター事務員 喜瀬 杏妃

【議題】

1. がん相談数について

今年度もコロナ禍というもあり、相談数が減少していることを話あう。新型コロナウイルス感染症が落ち着き次第病棟の面会が緩和することを期待。他病院に出向くのはどうかとの案がでた。県やセンター長に相談し内容を固めていきたい。

3. 野田さん意見交換会

野田さんとの意見交換会を控えて、千葉県での取り組みについて話あう内容を確認。どのような形態でピアサポート活動を行っているのか確認し、当センターでも取り入れたい。可能であれば、ピアサポーターも参加を検討。

3. その他

①養成講座やフォローアップ研修会に参加した登録サポーターをどのように育成していくか話し合った。次年度の登録サポーターの活動人数を把握し、次年度のピアサポート活動をより活発化し活動場所を提供したい。

②SNS活用を次年度こそは開始したい。ピアサポーターのみなさんにも投稿のアップロードのご協力いただける了承をいただく。本学に申請し、公式アカウントとして当センターをアピールしていきたい。

令和 4 年度 沖縄県委託事業

令和 4 年度 意見交換会
～沖縄県ピアサポート活動について～
開催報告

実施日：①令和 5 年 2 月 16 日（木） 15：00～16：30
②令和 5 年 3 月 9 日（木） 14：30～15：40

令和4年度 第1回 意見交換会

日時 令和5年2月16日(木) 15:00~16:00

場所 琉球大学病院 がんセンター (WEB)

出席者 野田 真由美さん (NPO法人 支えあう会「α」 副理事長)

増田 昌人 (沖縄県地域統括相談支援センター センター長)

西村 克敏 (沖縄県地域統括相談支援センター 相談員)

喜瀬 杏妃 (沖縄県地域統括相談支援センター 事務補佐員)

【報告】

1. 令和4年度 沖縄県地域統括相談支援センター ピアサポート活動 (資料1)
2. 患者サロンへのピアサポーターの受け入れおよびピアサポート活動について (資料2)
3. 「出張ピアサポート (仮称)」の開催について (資料3)
4. 「がん患者会意見交換会 (仮称)」への専門相談員の参加について (資料4)
5. オンラインゆんたく会への専門相談員の持ち回りでの参加について (資料5)
6. その他

【議題】

1. 沖縄県のピアサポート活動をどうしたらいいのか
2. その他

【議題】

1. パッケージ化

出張ピアサポートで各拠点病院へ行く際は、パッケージ化が大切。部屋を準備してもらい、広報をその病院でしていただくのみにする。チラシ作成や事務手続き等は当センターにて行う（ある程度開示できる範囲での情報を盛り込む）。時間帯は10時～15時など午前午後の待ち時間や予約前後に立ち寄れるようにするといい。予約なしで、いつでも立ち寄れるように出入り自由とする。

2. 形式

スーパーアドバイザーとピアサポーターで出向き、3人～4人を1チームとして個別相談を行う。ご家族やご遺族など色々な立場の人を混ぜて構成。基本的に受講したピアサポーター同士でがん相談をし、回数を重ねて経験させ育てていく。

3. 登録サポーターの把握

ピアサポーターが参加してもらうためには、年度計画を予め日程を立てておき、今年度活動できるピアサポーターを把握。前もって参加できる日を確認し予定を組む。

4. オンライン相談

千葉県ではピアサポーター2人～4人とスーパーアドバイザーを1人配置。事務や看護師などは入らず、スーパーアドバイザーも外から見守り少人数で行っている。

5. 院内患者サロン

院内患者サロンへ参加の際は、参加目的と立場を決めておく。ピアサポーターから外では言いづらいようで割と話題に出やすい内容などを振るなど、一参加者として参加するなど役割を決めていた方がいいのではない。

6. その他

病院では教えてくれない、直面する悩みや問題などを、ピアサポーターがミニレクチャーをするのはどうか。（今自分がどの位置に立っている状況の把握や、周りの人にどのように病気のことを伝えたなど）

【今後の取り組み】

「出張 ピアサポート（案）」

- ① 招聘者：ピアサポーター4名（登録サポーターも一緒に参加）
- ② 対象病院：那覇市立病院、中部病院、北部地区医師会病院（それぞれ1回は行く）
*部屋を準備してもらう。そして、広報をその病院でしていただく。
(チラシは地域統括で作成。パッケージでの提案で受け入れ先の負担軽減)
- ③ 対象者：がん患者、そのご家族とご遺族、がんについて関心のある方
- ④ プログラム（時間・内容仮）
 - 増田先生の講演（30分）
 - ピアサポーターによるミニレクチャー教室（15分～30分）
 - がん相談会（固い形式ではなく、カフェのような雰囲気づくり）（40分）×○回

令和4年度 第2回 意見交換会

日 時 令和5年3月9日（木）14：30～15：30

場 所 オンライン（Zoom）

出席者 野田 真由美さん（NPO法人 支えあう会「α」 副理事長）

河野 百合子 （沖縄県健康長寿課 がん対策班 班長）

小波津 真紀子 （沖縄県健康長寿課 がん対策班 主査）

増田 昌人 （沖縄県地域統括相談支援センター がんセンター長）

喜瀬 杏妃 （沖縄県地域統括相談支援センター 事務補佐員）

【報告】

1. 第1回 意見交換会 議事録 (資料1)
2. その他

【議題】

1. 次年度の沖縄県ピアサポート事業について
2. その他

【議題】

沖縄県のピアサポート事業について

1. スーパーアドバイザーの位置付け

小波津主査：報告事項の1.にあるスーパーアドバイザーとは、地域統括の相談員もしくは琉大の専門相談員の位置付けでしょうか。

野田さん：千葉県の場合は、がん専門相談員が一緒に行くことをルールとしていた。地域統括では、ピアサポーターの立場で対応しているので、スーパーアドバイザーとしての立場でやっていけないのではないかと。がん専門相談員が現場を離れて1日出張業務をこなすというは大変かと思うので、沖縄県の場合はピアサポーターが専門相談員として対応できるかと思う。

2. 形態について

小波津主査：スーパーアドバイザー1人と他登録サポーターで出向く形態になりますでしょうか。

野田さん：現在はリモートのみですが、ベースになった形は千葉の場合は、スーパーアドバイザー1人と他登録サポーターで出向いていた。

3. 有償ボランティアについて

小波津主査：有償ボランティアとの話でしたが、実費の交通費のみだけの支給ではないのでしょうか。

野田さん：交通費という形ではなく、1回に付きいくらか決めて支給。交通費とお昼代ぐらいの金額（5000円前後）で、県が予算を算出してくれている。予算が決まっているので、何回でも出向くというのにはできないが、交通費として考えるのではなく、おおよその時給計算で支給している。

4. 患者サロンと個別相談

小波津主査：各拠点病院へは患者サロンに参加という理由ではなく、別の日に個別相談ということでしょうか。

野田さん：各拠点病院では各々患者サロンなどを開催しているので、そこにピアサポーターを派遣をすると役割が大変。そこで千葉県では、パッケージ化で別日に個別相談を行っている。人、物、形式も全て決めた形で院内で開催させていただいている。競合することがない上に、患者サロンやっているのでいいですと断られることがあっても、研修を受けたピアサポーターが1対1ではない形式で個別相談を行っていますと言える。患者サロンは座談会形式なので、そこにプラスαでパッケージで個別相談を受け入れてもらっています。

5. 相談者について

小波津主査：個別相談をやるという周知を行ったところで、相談者がくるのでしょうか。

野田さん：それは病院によって差がありました。始めた当初は中々人が来ないということもありましたが、受け入れ先の病院の広報の協力があるかないかで集まりが違ってくるようになりました。院内での周知のご協力は不可欠。

6. 千葉県の活動できるピアサポーターの人数

小波津主査：活動できるピアサポーターが多いのは登録サポーターの多いことが理由でしょうか。

野田さん：対面で行っていた際は年間24回が基本だったので、登録サポーターがいなくて困るということにはなかった。活動できるピアサポーターによっても偏りがあるので、応募状況など地域統括の事務が調整している。

7. 千葉県のピアサポーターの養成人数について

小波津主査：過去の資料を見させてもらったが、ピアサポーター養成人数が多い理由はありますか。

野田さん：千葉県は3年に1回の養成となっているので1回開催時の受講生は20名くらいと多い。現在までで第5期生となっており、養成は100人を超えているけれども、登録し活動しているのは50人前後かと思う。千葉県でも2年に1回や毎年養成を検討しているが、今のところ3年に1回となっている。

8. やる気やモチベーションを保つには

小波津主査：3年に1回の養成となっているが、モチベーションを保つにあたって行っていることはありますか。

野田さん：1年に1回フォローアップ研修を開催。そこで交流会や一緒に学ぶことを行っている。また、ピアサポーターの総会を1年に1回開催。総会では、フォローアップ研修会とは別に行っている。また、自発的に交流を持つという理由で勉強会などやっているそうです。

9. 患者団体ごとに交流しているのか

小波津主査：自主的な交流とは患者団体ごとによるものでしょうか。

野田さん：患者団体とは連携など特に行っていない。千葉県のピアサポーターは患者団体に属している方もいらっしゃいますが、全くどこにも属さず個人で行っている方も中にはいて、自発的な交流は患者団体ごとではなく千葉に登録されているピアサポーターで行っている。

10. 患者会の協議会や連絡会議などもあるのか

小波津主査：患者会の連絡会議など千葉県はありますか。

野田さん：千葉県がん患者大集合というのを2008年頃に行って10年以上活動しているが、がん患者連合協議会ががん患者団体のものでピアサポーターとは関係のないものになる。千葉県主催の研修会を受けた人のみが千葉県がんピアサポーターと名乗れるとの基準がある。

11. 受講希望者への声掛け

小波津主査：養成講座のプログラムが何日間にも分かれています、どのように受講希望者へ声掛けしているのでしょうか。

野田さん：第1期生の時には、ピアカウンセラーを育てて各拠点病院で雇用してもらおうとの計画でした。なので、全く活動を経験をしたことがない人ではなく、患者会などで一定の経験を積んでいる方を対象ということで、患者団体へ声掛けし受講生を募集しました。雇用ではなく、新たに活動の場を作ることにしたので、2期生より公募にした。新聞とかいろんな所に載せて、あるいは声掛けなど今のところ公募にしている。なぜかという、色んな世代色んながん種の方が集まる。患者会に声掛けをするとやっぱり偏りができてしまう。新聞は有効で、地域新聞などに載せている。地域の新聞を見たといって受講する方やサロンの参加者も多い。後は、各拠点病院へチラシやポスターを送って、公募とリクルート両方行っている。研修日数については、初めて開催し独自のものを作ろうとのことで、コマ数や日数も多かった。基本的には2日間。富山県は月1回くらいで年10回の開催、1年をかけて養成している。自治体によって全く違う内容となっている。

12. 富山県の養成講座の開催

小波津主査：富山県では10回必須項目となっているのでしょうか。

野田さん：中でも必須のものと必須ではないものがあると聞いている。5大がんなど良く相談がくるものの知識を身につけることなどや厚労省が作っている研修会内容に沿った内容を行っている。自治体によってプラスαが大きな差がある。

13. パッケージで各拠点病院を回る際の注意点

小波津主査：各拠点病院を回る際の注意点などあれば教えてください。

野田さん：①受け入れ先との密な連絡②ルール決め（ピアサポーターが行動していい範囲など）③相談支援センターを紹介していいかなどの連携確認④非常口や避難経路確認。病院ごとに地域統括の担当者が確認している。

14. 広報の仕方

野田さん：千葉の場合は、顔だし可能な方はチラシに掲載している。また、出来る範囲での情報を開示している。どのような人がいるのかというのを分かると参加者も行ってみようとなるのではないかと思う。

15. 次年度の取り組み

野田さん：次年度の取り組みのプログラムの中でミニレクチャー教室では、テーマを決めるといいと思う。例えば、「がんのことでどのように周りに言ったらいいのか」など内容が分かるとより良い。

16. 年間計画はどのように立てているのか

小波津主査：各拠点病院出向く際の年間計画を予め決めて、年度始めで決めているのでしょうか。

野田さん：年間計画はいつどこでというのを決めると思う。ピアサポーターへ周知する際は半年や3ヶ月毎に呼びかけている。

17. 持ち込み資材について

小波津主査：パッケージで出向く際の資材はどのようにしているのでしょうか。

野田さん：トラベルバックに全て詰めて行ってきました。名簿や記録用紙・ティッシュなども持っていき、細かい備品なども含めて拠点病院に負担はかけないようにしている。お部屋と会議テーブルとイスを貸して頂ければ、開催できる形式にしている。

18. ピアサポート事業について

野田さん：ピアサポーターを養成したら、それをいかに利用してもらうかということになると思うが、利用があるかないかの評価になるというのはやむを得ないと思う。しかし、ピアサポートをする人受けたい人両方を支援することが大切で、一方的に支援するのではなく、ピアサポート事業は相互関係で成り立っている。がん患者さんのサバイバーシップという観点からも支援になるのではと思う。

19. ピアサポート事業に対する県や拠点病院ができること

増田先生：ピアサポート事業において県や拠点病院ができるサポートなどあれば教えてください。

野田さん：県の担当者での熱意で大きく変わる。担当者が変わることはやむを得ないが、しっかり引き継いでいただけたらと思う。県が主導になって行くと拠点病院も負担が減るのでは。県が音頭を取って予算をつけて事業を行っていくことが大切かと思う。また、都道府県拠点病院の中に地域統括があるというのは強い。地域にある地域統括の場合は、養成後の活動の場所の提供が難しい傾向にある。

20. その他

・サイコオンコロジー学会でピアサポート事業についてまとめることになっているが、10月開催の学会で沖縄県話すのはどうか。他県のピアサポート事業について中々知る機会もないので、沖縄県のこれまでの報告や意気込みなどをはなしてもいいかと思う。前向きに検討していただきたい。

・茨城県が対面でのサロンを始めた際にコロナ以前よりも相談が増加している。コロナで人と会えない中での治療なので、利用が増えているとのことではやはり対面での相談が良いのではないか。これから新たに取り組みとのこと各拠点病院へ出向く際も対面で行い沖縄県でも根付いていくといいなと思う。